

2025年度 カキ防除暦（刀根早生・平核無）



間伐・剪定を徹底し薬剤のかかりやすい園地にしましょう

基準防除（梅隣接園）（それ以外の隣接園では、各関係機関に問い合わせてください。）

※ 薬品名の後ろの()はRACコードです。

時期	病害虫	薬剤及び濃度	RAC	収穫前使用時期	使用回数	備考	
12月～3月 (休眠期)	越冬病害虫	冬季防除（耕種的防除） ○粗皮削りは根幹害虫、フジコナカイガラムシ等重要害虫の越冬密度を下げる効果が高い。 ○病害対策として、落葉焼却（落葉病）、病枝せん除（炭疽病）を徹底する。 ○石灰硫黄合剤（M2）7倍（発芽前）を散布する。					
4月中旬	カイガラムシ類 ケムシ類	オリオン水和剤40	1,000倍	1A	収穫21日前まで	1回以内	○カイガラムシ類幼虫にはアブロード水和剤(16)(脱皮阻害剤) 1,000倍(開花期まで但し、 収穫45日前まで・2回以内) でもよい。ただし、開花後は果実に薬害が出るので絶対に使用しない。
開花直前	アザミウマ類	ディアナWDG	5,000倍	5	収穫前日まで	2回以内	○炭疽病前年発生園では下記を参考に追加防除を実施する。
満開期	落葉病 炭疽病 うどんこ病	アミスター10フロアブル	1,000倍	11	収穫7日前まで	3回以内	○ハダニ類発生を抑えるため、除草を励行する。ただし、下草で多発した場合の機械除草は、柿への移動を 助長するので注意。 ○ミヅバチ放飼期間中は、殺虫剤の散布をしない。
	アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000倍	4A	収穫前日まで	3回以内	
6月上旬 ～中旬	落葉病 うどんこ病	スコア顆粒水和剤	3,000倍	3	収穫前日まで	3回以内	○カメムシ類は発生予察情報に注意し、適用防除に努める。 ○炭疽病お困りの場合はスコア顆粒水和剤(3) 3,000倍(収穫前日まで・3回)を代用する。 ○炭疽病の発病新梢は、必ず切除・処分しておく。 ○炭疽病発生園では、下記を参考に追加防除を実施する。
	カキノヘタムシガ アザミウマ類	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	4A	収穫7日前まで	3回以内	
6月下旬 (幼果期)	落葉病 炭疽病 うどんこ病	ストロビードライフロアブル	3,000倍	11	収穫14日前まで	3回以内	○ストロビードライフロアブル(11)の代わりに同系統のフリントフロアブル25(11) 2,000～3,000倍 (収穫前日・3回まで)でも可。 ○アザミウマ類はディアナWDG(5) 5,000～10,000(収穫前日まで・2回以内)を用いる。 ○降雨が多くなると予想される場合は、耐雨性を高めるため展着剤のK.Kステッカー (2,500～3,000 倍)を加用する。
	カイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ	コルト顆粒水和剤	2,000～3,000倍	9B	収穫前日まで	3回以内	
8月上旬 ～中旬	炭疽病 うどんこ病	ベンレート水和剤	2,000～3,000倍	1	収穫前日まで	6回以内	○夏期の防除は薬害防止のため日中高温時を避け、朝夕の涼しい時間帯に散布する。 ○炭疽病の発病果・枝は秋季の伝染源となるので、9月までに出来る限り除去しておく。 ○カキノヘタムシガは、発生予察情報を基に適期防除に努める。 ○カキノヘタムシガ多発園では、サムコルフロアブル10(28) 5,000倍（収穫前日まで・3回以内）を散布する。
	カキノヘタムシガ	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	4A	収穫7日前まで	3回以内	
9月上旬	炭疽病 うどんこ病	オンリーワンフロアブル	2,000～3,000倍	3	収穫前日まで	3回以内	○気温の低下とともに炭疽病の発病果が新たに発生するので、除去を徹底する。 ○炭疽病発生園では、下記を参考に追加防除を実施する。 ○カメムシ類発生時には下欄から殺虫剤を選択・変更する。
	イラガ類・ハマキムシ類 ハスモンヨトウ・ケムシ類	フェニックスフロアブル	4,000倍	28	収穫7日前まで	2回以内	

（注1）トクチオン水和剤(1B)、デランフロアブル(M9)は、梅隣接園では食品衛生法に基づく農薬残留基準の関係で、梅(果実)からこれらの農薬成分が検出されれば、出荷停止、栽培自粛など、産地として大きな打撃を受ける
ことになります。よろしくご理解をお願いします。

（注2）ジマンダイセン水和剤(M3)、有機銅剤は、梅(果実)に飛散すると果面の汚れの原因となります。クリーム、トラブルを回避するためにも、梅隣接園では使用しないようお願いします。

他作物が隣接しない、飛散の心配のない刀根、平核無園の場合

時期	病害虫	薬剤及び濃度	RAC	収穫前使用時期	使用回数	備考
12月～3月 (休眠期)	越冬病害虫	冬季防除（耕種の防除） ○前年カイガラムシ類多発園ではマシン油乳剤（-）にトクチオン水和剤(1B) 800倍（収穫75日前まで・2回以内）を混用散布すると効果が上がる。 但し、年間防除の中で2回使用できない為、回数に注意すること。 ○粗皮削りは根幹害虫、フジコナカイガラムシ等重要害虫の越冬密度を下げる効果が高い。 ○病害対策として、落葉焼却（落葉病）、病枝せん除（炭疽病）を徹底する。 ○石灰硫黄合剤（M2）7倍（発芽前）を散布する。				
4月中旬	フジコナカイガラムシ	トクチオン水和剤	800倍	1B	収穫75日前まで	2回以内 ○カイガラムシ類幼虫にはアブロード水和剤(16)(脱皮阻害剤) 1,000倍(開花期まで但し、収穫45日前まで・2回以内) でもよい。ただし、開花後は果実に薬害が出るので絶対に使用しない。 ○トクチオン水和剤(1B)は単用で使用する。薬害の恐れがあるのでデランフロアブル(M9)とは混用しない。
5月上旬 (ミヅバチ導入前まで)	落葉病 炭疽病 うどんこ病	チオノックフロアブル	500倍	M3	収穫30日前まで	2回以内 ○炭疽病発生園では、ジマンダイセン水和剤(M3) 400～800倍（収穫45日前まで・2回以内）に変更する。
	カキクダアザミウマ チャノキイロアザミウマ	オルトラン水和剤	1,500倍	1B	収穫45日前まで	2回以内 ○炭疽病前年発生園では、下記を参考に追加防除を実施する。
6月上旬 ～中旬	落葉病 炭疽病	ジマンダイセン水和剤	400～800倍	M3	収穫45日前まで	2回以内 ○カメムシ類は発生予察情報に注意し、適当防除に努める。 ○炭疽病の発病新梢は、必ず切除・処分しておく。
	カキノヘタムシガ チャノキイロアザミウマ	オルトラン水和剤	1,500倍	1B	収穫45日前まで	2回以内 ○すでにオルトラン水和剤(1B)2回使用された場合はパダンSG水溶剤(14) 1,500倍(収穫45日前まで4回以内)を使用する。 ○炭疽病発生園では、下記を参考に追加防除を実施する。 ○アザミウマ類はディアナWDG(5) 5,000～10,000倍(収穫前日まで・2回以内)を用いる。 ○降雨が多くなると予想される場合は、耐雨性を高めるため展着剤のK.Kステッカー（2,500～3,000倍）を加用する。
6月下旬 (幼果期)	落葉病・炭疽病 うどんこ病 灰色かび病	ナティーボフロアブル	2,000倍	3 + 11	収穫前日まで	3回以内
	コナカイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ	コルト顆粒水和剤	2,000～3,000倍	9B	収穫前日まで	3回以内
8月上旬 ～中旬	炭疽病 うどんこ病	ベンレート水和剤	2,000～3,000倍	1	収穫前日まで	6回以内 ○夏期の防除は薬害防止のため日中高温時を避け、朝夕の涼しい時間帯に散布する。 ○炭疽病の発病果・枝は秋季の伝染源となるので、9月までに出来る限り除去しておく。
	カキノヘタムシガ	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	4A	収穫7日前まで	3回以内 ○カキノヘタムシガは、発生予察情報を基に適期防除に努める。 ○カキノヘタムシガ多発園では、サムコルフロアブル10(28) 5,000倍（収穫前日まで・3回以内）を散布する。
9月上旬	炭疽病 うどんこ病	スコア顆粒水和剤	3,000倍	3	収穫前日まで	3回以内 ○気温の低下とともに炭疽病の発病果が新たに発生するので、除去を徹底する。 ○炭疽病発生園では、下記を参考に追加防除を実施する。
	カメムシ類・ハダニ類 アザミウマ類 カキノヘタムシガ	アーデントフロアブル	2,000倍	3A	収穫前日まで	3回以内 ○カメムシ類発生時には下欄から殺虫剤を選択・変更する。 ○フェニックスフロアブル(28) 4,000倍（収穫7日前まで・2回以内）でも可。

（注）表中の使用回数は、その薬剤の使用回数を記載しています。このほかにも、農薬には有効成分ごとに総使用回数が定められています。そのため、薬剤名が異なっても有効成分が同じものや、適合剤などの使用に際
しては、ラベルなどに記載されている有効成分ごとの総使用回数に基づき使用して下さい。

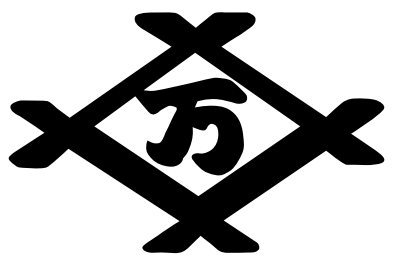
病害虫の発生状況により必要な防除

病害虫	判断基準	防除時期および防除法
炭疽病 (特に注意が必要)	前年発生園及び発病果・枝を 確認した場合	3月下旬：隣接のない園では石灰硫黄合剤(M2) 7倍（発芽前）を散布する。
		5月中下旬：ストロビードライフロアブル(11) 3,000倍（収穫14日前まで・3回以内）を散布する。灰色かび病も同時防除できる。
		7月中旬（梅隣接園では収穫後）：ジマンダイセン水和剤(M3) 400～800倍（収穫45日前まで・2回以内） オーソサイド水和剤(M4) 1,000倍（収穫7日前まで・5回以内）のいずれかを散布する。
		9月下旬：スコア顆粒水和剤(3) 3,000倍（収穫前日まで・3回以内）を散布する。
炭疽病		スクレアフロアブル(11) 2,000～3,000倍（収穫前日まで・3回以内）を散布する。 ミギワ20フロアブル(52) 2,000～4,000倍（収穫前日まで・3回以内）を散布する。
落葉病	前年多発園および 放任園が隣接する場合	7月上旬：スコア顆粒水和剤(3) 3,000倍（収穫前日まで・3回以内）またはネクスターフロアブル(7) 1,500倍（収穫前日まで・3回以内）を散布する。
すす点病（ハイフン）	前年多発園	6～7月中旬：ベルコート水和剤(M7) 1,000～1,500倍（収穫14日前まで・3回以内）またはオーソサイド水和剤80(M4) 1,000倍（収穫7日前まで・5回以内）を散布する。
樹幹害虫 (ヒメコスカシバ・ フタモンマダラメイガ)	発生が目立つ場合	4月下旬：フェニックスフロアブル(28) 200倍（開花期まで・1回）を樹幹部に散布する。 散布圧力を低くして枝に沿って少量散布する。（2～5L/樹）。 スカシバコン(ー) 40～100本/10a・成虫発生初期から終期）は、2ha以上のまとまった面積に設置するとヒメコスカシバの密度低下に効果がある。
チャノキイロアザミウマ	前年多発園および発生が目立 つ場合	7月下旬：コルト顆粒水和剤(9B) 2,000～3,000倍（収穫前日まで・3回以内）を散布する。
ミカンキイロアザミウマ	刀根早生で着色の早い果実に 被害を認めた場合	テルスター水和剤(3A) 1,000倍（収穫14日前まで・2回以内）またはアーデントフロアブル(3A)(水和剤に比べ果実の汚れ少ない) 2,000倍(収穫前日まで・3回以内)を 散布する。除草作業を行った場合5日以内に防除を実施し、不要な除草はしない。
カメムシ類	飛来・加害を認めた場合	＜防除薬剤＞アドマイヤー顆粒水和剤(4A) 5,000～10,000倍（収穫7日前まで・3回以内）、アグロスリン水和剤(3A) 1,000～2,000倍（収穫前日まで・3回以内）、 ダントツ水溶剤(4A) 2,000～4,000倍（収穫7日前まで・3回以内）、アルバリン顆粒水溶剤(4A) 2,000倍（収穫前日まで・3回以内）、 梅隣接園では収穫後使用可：キラップフロアブル(2B) 2,000倍（収穫7日前まで・2回以内）
フジコナカイガラムシ	発生が目立つ場合	バリアード顆粒水和剤(4A) 2,000倍（収穫前日まで・3回以内）またはコルト顆粒水和剤(9B) 2,000～3,000倍（収穫前日まで・3回以内）を散布する。
ハダニ類	前年多発園および少雨高温年	5月中旬～6月上旬：ダニトロンフロアブル(21A) 1,000～2,000倍（収穫7日前まで・1回）、ダニコングフロアブル(25B) 2,000倍（収穫前日まで・1回） マイトコネフロアブル(20D) 1,000～1,500倍（収穫7日前まで・1回）またはスターマイトフロアブル(25A) 2,000倍（収穫前日まで・1回）を散布する。
カキサビダニ	前年多発園および少雨高温年	5月上旬：コテツフロアブル(13) 4,000倍（収穫14日前まで・2回以内）を散布する。ピラニカ水和剤(21A)は展葉～開花期には薬害の恐れがあるので使用しない。
アザミウマ類		ディアナWDG(5) 5,000倍（収穫前日まで・2回以内）を散布する。

※合成ピレスロイド剤の多用は、ハダニ類やカイガラムシ類の多発を招くので注意する。

※この防除暦は2024年度時点での登録内容です。国の農薬登録制度が変わったため、登録内容が変更になる場合があります。

農薬使用時には最新の登録内容を必ずご確認ください。※



お問い合わせは

有限会社

ふじまん

藤万

五條市野原西4丁目11－30
TEL：0747－23－2400
FAX：0747－22－2035
MAIL：inquiry@fujiman.co.jp
H P：https://fujiman.co.jp/



藤万公式サイト